

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年8月26日（木）午前10時00分～11時30分
場 所 結とぴあ 3階305号室
出席者 教職員 80名
教育長、教育総務課長、教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 説明を聞いた印象としては、統合というより吸収というイメージがあるように感じた。小浜市や敦賀市の場合は、校舎を新設し校名も変えて統合している。

大野市は既存の校舎を使う。今年度、乾側小学校と下庄小学校が統合されたが、乾側小学校が吸収されたようなイメージになってしまっていると思う。今後、小山小学校や阪谷小学校も吸収されたというイメージを持たれるのが地域の方にとっても一番良くないと思うので、その辺を払拭する手だてがあればと思うが、ただ学校名を変えればよいという問題ではないと思う。どうしても既存の校舎を使うから、開成中学校や陽明中学校のいいところはそのまま残して、校訓なども使えるという利点はあると思う。尚徳中学校や和泉中学校の校区の方々が、自分らは吸収されたという思いをするような統合の仕方はよくないと感じたので、その辺の配慮がされるといいと思う。

市教委 おっしゃる通りだと思う。これまでの19回の説明会の中で、特に小さい学校、動かなければならない学校の保護者や地域の方々は、吸収されたというイメージは非常に困ると言っていた。その時に私がお伝えしたのは、あくまでも一対一、学校対学校の再編でなければならない、校区も地域も一対一であり、そのようなこととなるべくないようにと申し上げた。陽明中学校にしても、開成中学校、有終南小学校、富田小学校にしても、やはり新生陽明中学校、新生開成中学校であって欲しい。

説明会では、校名を変えたほうがよいというご意見は1件だけあった。その時は、今回の再編ではそれは考えていないと回答した。ただ、その地区全体の総意として話が出てくれば、我々も考えなければならないと申し上げた。やはり小さい学校の皆さんはそうおっしゃる。だから、私は受け入れる学校にどういうふうに入れたらいいのか十分考えて欲しいと申し上げた。

有終南小学校の説明会で、PTA、保護者の方は、こう言ってくださった。一つは、小山小学校の子どもたちが来てくれて、新しい有終南小学校の文化を作っていきたい。もう一つは、小山小学校の子ども達を自分の子どもに置き換

えて考えたときに、本当に丁寧にそしてやわらかく温かく迎えてあげたいという気持ちを新たにすると、そう言われた。本当にありがたいと思う。

皆さんの中で、どういうふうにすると今の課題が解決できるのかということを考え始めて欲しい。例えば、体操服を新しくしようとする、有終南小学校の体操服の色に小山小学校の何かが入るとか。開成中学校のユニフォームに上庄中学校の何かが入るなどというのも一つの方法かと思う。スクールカラーはどうするか。制服は、皆さんどうか。大きいことを考えるとそういうこともある。何か様々ありすぎて整理がつかないが、今のような大きい考え方をみんなアイディアを出しながら考えていってもらえるとありがたい。我々も考えるが様々なアイディアを出して欲しいと思う。

参加者 統合となると受け入れる学校側がある程度考えておかないといけない。例えば、今私は有終南小学校に勤務しているが、4年後5年後に小山小学校の子どもが来ると考えると、何か対策を考えておかないといけないと思う。ただ、小山小学校と有終南小学校は、今はコロナの関係で出来ていないが、昔からずっと交流してきているから、割とその学年に入っても、子どもたちは馴染んでやってくれているというイメージもある。スクールカラーのようなことは、大人や教員が考えてあげないといけないところだと思った。

参加者 教職員のことでお伺いしたいが、再編された場合に、教職員の数はどれぐらいになって、おそらく数が減ると思われるが、何人ぐらいの教職員が余って、それらの教員がどうなっていくのかを教えてください。

市教委 数字的にきっちり出してはいないが、そういう心配は皆さんの中であって、過員になったら、外に出なければいけないのかという心配もあると思う。子育て中とか様々なことがある。それも視野に入れながら、令和6年度、8年度というのを考えている。外から来ていただいている方、そしてまたここに帰ってきた方。そして、何年後にはまた戻りたいとか様々な希望の方がいらっしゃる。そういう方々の希望を丁寧に聞き取り、再編のときにつらい思いをしないようにと考えていくのは我々の使命だと思う。校長ともしっかり相談しながら、緩やかに整備していくということが必要だと思う。

参加者 説明会で出された主な意見と回答というところで、けがや病気のときの体制を整えて欲しいというところがあった。私は養護教諭をしている。ここに書いてある通りのことは以前ならできていたが、中学校では、けがが多くなるのは部活動の時間となり病院も終わっている。午後6時ぐらいに目にボールが当たり、すぐ病院行きたいけれど行けないという時もある。保護者の方に希望を聞くと、最近は大野市以外の病院を希望される方も大変多く、学校から連れて行くのが難しい時もある。時間帯にもよるが、大体は保護者の方にお願ひし、そのまま病院へ連れて行っていただくことが大変多い。日中でもタクシーが非常

に少なく、5時以降連絡すると営業が終わっていて、タクシーが使えないことがある。その移送手段、病院へ行く体制がなかなか取りづらい。今はほとんど保護者の方に来ていただき、連れて行っていただくという体制になっている。

今後、統合した時に、今は校区の中の保護者なのですぐ来ていただくこともできるが、遠くの和泉地区からのお迎えとなるとどういう体制になるのかと思う。今はコロナもあるので、発熱や風邪のような症状があったら早退ということも非常に多くなっているが、迎えに来ていただくまでの時間や都合をつけるのが難しくなるということを考えると、心配をしている。

まずは、今、病院に運ぶ足がほとんどないことがすごく不安になっていて、何か学校で受診する場合に特別な所から出していただけるとか、大野市としての体制が何かないと、本当にタクシーも捕まらない。校医の検診でも、時間が読めないの、迎えはその時また電話してと言われてたり、タクシーをとにかく2台で回さないといけないということを言われたりもしている。市外の医療機関に運ぶ場合にどうしたらいいのかとか、本当に何か悩ましいことが今の段階でも結構出てきている状態である。

遠くから生徒が来るようになった時、そういう状況が起きた時にどうしたらいいのか、直ぐに迎えに来てもらえない生徒をどう扱ったらいいのかということもすごく不安だということがある。そういう状況であるということをお知りおきいただき、市としてできることがあれば、検討していただけるとありがたいと思う。

市教委 一つだけ聞こえにくかったのだが、大野市として何かを出してもらえるとありがたいとおっしゃったのは何だったか。

参加者 タクシーがとにかく捕まらない。大野タクシーさんに電話したら今年から2台になったと言われ、5時以降に電話すると営業を終了したということもあった。すぐ保護者の方が来て連れに来てくださればいいが、そう出来ないとき、救急車を呼ぶ場合もあるが、救急車を呼ぶほどではなく、でも病院へ連れて行きたいという時にタクシーが捕まらない。

市教委 大野市として何をとおっしゃったのか。

参加者 タクシー替わりになる車を緊急時に出してくれないかと。

市教委 救急車が行くとかだろうか。

参加者 自分たちで運転して連れて行くことはできないので、そういう体制がもしあるとありがたい。

市教委 結論から言うと、養護教諭の皆さんの部会で課題を洗い出してもらい、方法を考えていただき、これは市に提案しないといけないなど、そういうことをこの機会に考えてもらえるとありがたいと思う。資料に載ってる意見は小学校の保護者であった。だから基本的な方針として小学校の場合には親元地元が基本

という計画としている。参考に、この計画案が煮詰まってきたのと同時に、中学校の校長が自主的に集まっていた。例えば、部活の件で、新1年生が3年生になる時にはもう一緒になるのだから、早く動かないといけないこともあるので、もう検討を始めてもらっている。今の意見も、本当にご心配だと思うので、一度相談してもらいたいと思う。

参加者 またみんなで様々話をしてみたいと思う。

市教委 指導主事も話し合いに入れていい形で進めて欲しい。

市教委 2年前の学びの里「めいりん」では全体会をして、そしてグループで話をしていた。その時も、ダイレクトに質問したいとか意見を言いたいという方もいらっしまった。前はみんなの意見が欲しいと思ってそうしたり、アンケートをとったりした。

それからこうして2年間、様々な積み上げをしてきて、今日はダイレクトにそれぞれみんな課題が共有できたらいいと思っている。今日ここで何か発言したからその通りになるとか、責任があるとかではなくて、自分は学校にいる者としてこんなふうに考えている、こんな印象を持っているということでもいい。保護者と話するとこんな意見もあるということでも結構である。様々な形で発言いただければありがたいと思う。

参加者 感想と確認と提案をしたいと思う。再編の様々なところでの説明会を見させていただき、賛否どうこうよりも、再編した後はどうしようかというところにすごく目が行っているというのが感想としてある。先にも質問があったが、校区研の方でも先を見据えて、そういうことを検討していかないといけないと、当事者の学校だけではなく中学校区の校区研として、先を見据えて、取り組みをしていかないといけないと感じている。

次に確認だが、特に中学校区で再編した後に、指定学校の変更、部活動などで様々な条件が出てくると思うが、現在の指定学校の変更等の条件は変わらないのか。そこを崩してしまうと、この推移の数というのが読めなくなってしまう。厳しいということで、その点について確認をさせていただきたい。

提案としては、中学校で専門の教員を配置しようとする、全学年4クラスが必要になるのではないかと考えている。特に開成中学校と上庄中学校を再編した後も令和10年には3クラスの学年が出てくる。以前から話していたことだが、これを機会に少し先を見据えて、陽明中学校は人数的に4クラスでも多いので、校区の線の引き直しをしてはどうか。どちらの中学校も令和12年ぐらいまでは4クラスを保てるように、中学校区の隣接する地区を片方の校区に変えると、この先何年間かはどちらも4クラスを保てるのではないかとということの一つ提案する。

市教委 まず校区の中で学校単独ではなく様々な協議を始めていきたいという提案、

本当にありがたい。どうか様々な課題があると思うが、少しずつ、一緒に進めさせていただきたいと思う。

2点目の指定学校の変更だが、結論から言って今の基準を崩すつもりはない。説明会に行った意見の中で、2年3年先に再編が決定してるのであれば、先にその学校に入学はできないのか、小学校3年生で再編されるのなら1年生で再編先に行けないのかというお話があった。私はその時にきっぱりと、そういう規定はないし今後それを作るつもりはないと申し上げた。

理由とすると、1点目は、例えばAちゃんが行った、Bちゃんに行けない、私はどうしよう、うちはどうしよう、隣はどうするのだろうという、いらぬ不安を保護者の方やご家庭に与えるべきではないという点である。これはきちんと教育委員会として考えなければいけないことだと思う。2点目は、A校が小さくてB校が大きく、A校がB校に通学するというパターンが多いかと思うが、その時に、A校の教育やアイデンティティをしっかりと最後まで確保してあげたいという点である。本当は10人来る予定だったのに、柔軟にしたから5人しか来なかった。本当は単独学級でいけるのに複式になってしまった。これは駄目だろう。その学校を最後まで、きちんと全員で頑張らせてあげたいと思う。様々な意見があるが、こうして説明をすると、なるほど了解できたと言っただけ。

基本的な考え方として、保護者の方や地域の方の要望は受け付けなければいけない、しっかり聞かないといけない。でもそれに対してどうするかという発想は半分必要だが、教育関係者として主体的に考えるというのが半分なくてはいけない。だから傾聴はするが、あとの2割3割は、学校として教育専門家として考えなければいけないところは、きちんと主張させていただくということになると思う。

3点目の校区は大切だ。ただ、校区の引き直しを提案して、反対意見が多く收拾がつかなくなったという例は何件かある。今回の再編を収めながら、今年も（案）を取るのに検討委員会に報告する。普通は、検討委員会は提案が終わってしまったらそれで終わりだが、大野はそれをしない。検討委員会の皆さんが提案し市教委が作った案を、ご提示に行ったらこういう反応があったということを検討委員会に報告する。パブリックコメントの結果も報告することになっている。

この検討委員会は15人いるが、来年は5、6人、再来年もそれぐらいの規模で、児童生徒は大丈夫だろうか、専門教科教員が揃うだろうかということも含めずっと追跡していく。そして、令和8年に小学校が収まり、あと5年くらいしたら本当に今の形でいいのかと、将来に向けた検討を、少しずつ必要があれば行っていく形である。そうすると最終的にどこ行き着くかということ、中学

校を1校体制にしなければいけないのか、2校を堅持すればいいのか、堅持するためには専門教科をどうするかということが、10年後15年後に大きな課題になって、大野市として決断を求められる時期が必ず来ると思う。

多くの課題があるが全部は言いきれないなので、こんなふうに引き出してもらえると、皆さんに腹に落としてもらえるかと思う。どこからでもいいので、この点はどうとかそんな形で聞いてもらいたい。

参加者 もうすでに考えられていることだとは思いますが、自分の中で思ったことを一つ教えて欲しい。今のコロナとか、様々予測不能なことが起きている中の一つで、今年の冬の雪害についてである。私は今まで福井市の美山啓明小学校に行っていたが、すごく校区が広く、一番雪がひどいときにはそれぞれの地区の津々浦々まで見に行くことができなかった。実際自分の目で確認したいと思いつつも危険で行くことができなかった。

大野でも予測不可能な災害、大雪も頻繁に起きているので、学校が一緒になることで、校区が広くなり、教職員も1ヶ所に固まってしまい、校区の隅々まで見に行くことがなかなかできないこともあるかと思う。この統合の中で、当地域の災害時に、土木事務所などとも一緒にバックアップできる体制を学校の方でも考えていかないといけないと思う。児童の安全を守るために、教育委員会の方や行政の方も、土木事務所などとの連携、連絡が学校によく入るようなシステムをぜひお願いしたいと思う。

市教委 学校とその地域の連携という点では、これまでも、学校それぞれに地域連携協議会を作っていたかと思う。今までは福井県型のコミュニティスクールをしていたが、来年度からは本格的に国型のコミュニティスクールとして、より公民館などと連携して、その地域の方に学校運営に関わっていただける形をとっていきたいと考えている。コミュニティスクールを進めていく中で、災害の時なども、よりその地域の方に学校に関わっていただくことが出てくるかと思う。その中で、相談や支援なども行っていただくようにお話していければいいかと思う。

今は、地域の繋がりをより強く、地域の中の学校として一体的にという基本的な考えについて言ったが、雪害の話に焦点を絞ると、私も対策本部の一員なのでその時のことを申し上げるが、市長の第1の指示は、とにかくライフラインを確保して市民の安全を第1にとのことだった。学校についても、基幹道路である国道や県道よりは少し遅れたかも知れないが、学校前や歩道の除雪を最優先に、職員、業者の方々も寝ずにやってくれた。しかし、大野市街の学校の近くならどうか早く動けたが、そこから少し離れた所や、周辺の方の子どもたちの足がなかなか確保できないということが一番問題になった。対策本部では、そのこともしっかり考えながら、どこの路線が空いていてどの路線が空い

ていなくて、いつ、空いてきそうかとかということもきちっとコントロールしてやっていた。そういう状況は、学校を通じて市教委に挙げていただければ最善を尽くしたいと思う。

参加者　もちろん大雪のとき、様々ご尽力いただいていることも重々わかっているし、またぜひ、安全確保と一緒にさせていただきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

市教委　例えば臨時休業にするかしないかの判断は非常に難しいと思う。校長としっかり連携しながら早めの対応をしていきたいと思う。今まではタブレットがなかったのなるべく学校へという意識が強かったが、雪、台風、洪水等のことを考えると、まず子どもたちをそういう危険に合わせないということが大切になる。タブレットなども駆使しながら教育環境を維持していくことになると思う。昨日の教頭会でもその議論をしてくれているのでありがたい。

市教委　では、2、3分、今日聞いてもらった今のやりとりを踏まえて、周りの人と自分はこんなふうにしたということを話してもらいたい。

参加者　（グループで話し合い）

市教委　それでは今話したことを2、3紹介してもらいたい。

参加者　学校現場としては、この案に向けて実際いつから準備に動き出すとよいか。制服や生徒会のこととか準備していかないといけないと思うが、実際にはいつから動き出すとよいか。

市教委　この（案）は今年度中には取れる予定である。先ほど説明があったように、来年4月から準備委員会を立ち上げていく。令和5年度からは交流が主になるかと思う。準備委員会が1年で終わるかどうかは明言できない。乾側小学校の場合には急だったので無理を言ったが、細かいところまでやっていかないといけない。先ほどの説明でもあったが、その準備委員会も受入れる側の方もしっかり考えて欲しいので、ただ動いていただく学校だけで準備委員会を行うというようなことでもなく、みんなで考えていけるような協議会が必要かと思う。

参加者　では実際、来年度には教職員で会議を持って方向性を決めていかないといけないということになるか。

市教委　この2年は、今のような理由から必要な期間だと思う。小学校も中学校が終わってから2年という期間を持っている。そんなに時間はない。できることは、しっかり準備していきたいと思う。

参加者　最初に、子どもたちの懸念するところを考えると、不適応を起こす子どもたちがいないかとか、多くなるのではないかとか、そのためには養護教諭が今よりも多く必要だとか、子どもたちのことを考えると様々な環境面を整えていかないといけないという話が出た。私は今年、下庄小学校で乾側小学校の子と一緒に学習をスタートさせた。最初の質問にあったように、吸収されるというイ

メージになっていないかということ自分で振り返った。私は乾側小学校にも7年間勤めさせてもらったことがあり、自分のクラスに入ってきた子どもたちには、最善の気配りを心がけつつ学習活動してきた。

夏に乾側校区の子どもたちの自宅を確認するのに乾側地区を回り、自分が乾側小学校にいた時のいい思い出とか、校舎も残っていて懐かしい気持ちとか、乾側のすごくいいところがたくさん浮かんできた。

それを今、クラスにいる子どもたちが下庄の子たちと共有できているかと考えるとなかなか難しい。なかなかそれを胸張って自慢したり言ったりするのは難しかったり、そういう場を設定しているかということ振り返り、もっともっと、これから2学期以降、乾側地区の人たちの気持ちを考えつつ、下庄小学校の校区が当然大きくなったんだと、それだけ新しい視野で物を見られるし、新しいことも知れるということ、子どもたちにも地区の人たちにも、もっともっと訴えアピールしていかないといけないのではないかと振り返った。

再編の話をもう1回考えると、みんなが新しいものをつくり出していくという思いで、どこの地区も大野市が新しい学校をつくるという思いがないと、吸収されてしまうのではないとか不適應の心配とか、そういうのが出てくるのかと思う。確かにそういう対応はステップを踏んで、来年からこういう準備をしていこうという具体的な策は必要だと思う。

上庄小学校の校歌もとってもすてきで、乾側小学校の校歌もすてきで、いずれは考え直す必要があると書いてあったが、今下庄の子が、乾側の校歌を十分に知って、そのよさを歌えているかということ、なかなかそれもできていない。そういう振り返りの機会になった。今度の再編の時には、みんなが、大野市が新しい学校を作っていくんだという思いで、先に中学校でそれを示し、示せるものがあって、小学校の子たちも、再編のときに不安のないような、創造するという気持ちで、学校を見られるといいのではないかと思った。

市教委 実際と一緒に過ごしている方の言葉なので、非常に重く受けとめさせていただき、本当にうれしく思う。

今の話でも、学校再編というのは校舎をどうこうというのではなく、大野市の学校の教育環境をどういうふうに整備するかということだと思う。子どもたちは少々辛いことがあっても、今のパラリンピックではないが、レジリエンスを考慮しながら明日も行こうと思える学校にしていかなければならないと思う。地域のこともおっしゃっていただいたが、地域の方々も今のお話をライブで聞いていらっやったら、皆さん本当に喜ばれると思う。そういうことも様々な形で市民の皆さんにお伝えしていきたい。学校で長く関わっていただいている教職員の皆さんのこの暖かくて熱い思いを、しっかり市民の皆さんに届けたいと思う。

④閉会のあいさつ（教育長）